

まいぶん 愛知

1頁 ホームページ新コーナー開設 2-3,4頁上 特集～古鏡～ 4頁下平成12年度埋蔵文化財展の報告

「ようこそ、ぱれ～す遺跡へ！」 ～ 小中学生向け新ページ 開設 ～



8月1日よりスタート。

「ぱれ～すはかせ」が遺跡をご案内します。
まず、「風景」をクリックすると、
当センターが調査した県内の遺跡へ



トップページで、どちらかのボタンをクリック
すると、「ぱれ～す遺跡」のページへ行けます。



<http://www.maibun.com> へアクセスしてみてください。
(少し重たいので気長にダウンロードして下さいね。)

県内遺構・遺物集成 No.19

愛知の古鏡

(愛知県埋蔵文化財センター主査 赤塚次郎)

県内出土の古鏡は、やや出土に不安定なものを含めて、現状ではおおむね尾張地域で68面、三河地域で21面、合計89面を数えることができる。その多くが古墳出土であるが、中には遺跡出土も数点含まれる。ただ出土地が不安定なものもあり、再検討の必要な資料も含まれている。

鏡式からみると、最も多いのが三角縁神獣鏡であり17面、次に内行花文鏡が9面、獣形鏡が9面であり、この三つの鏡式で約40%弱を占めることになる。さらに^{ねじもん}掬文鏡が6面、乳文鏡と珠文鏡がそれぞれ5面、^{じんぶつきんじゆうもん}人物禽獣文鏡が四面と続く。三角縁神獣鏡が群を抜いて多く出土している点は注目したいところであり、その主体となる鏡は三角縁波文帯ないし獣文帯三神三獣鏡である。以下、ここでは古墳時代前期までの鏡を中心に、県内出土の古鏡を整理しておきたい。

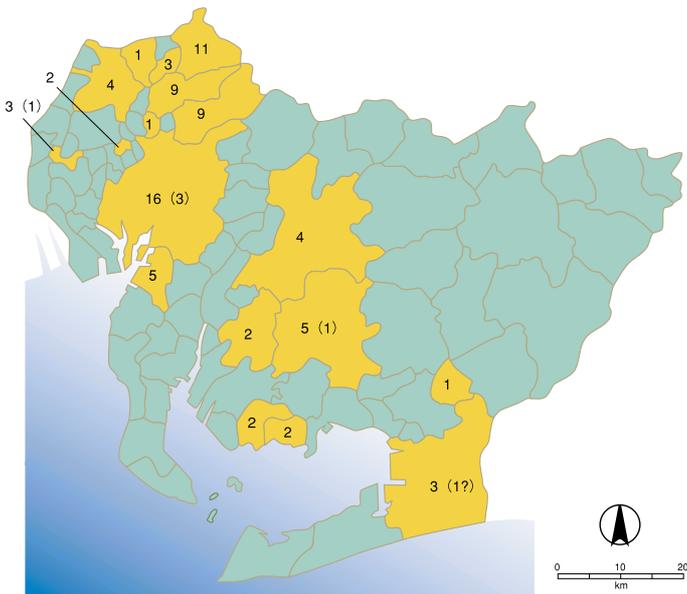
最古の鏡

県内で最も古い鏡を捜すと、弥生時代後期の土墳墓から出土した朝日遺跡の^{きりゅうもん}虺龍文鏡をあげることができよう。「最も古い」とは、鏡の製作年代と出土した遺構の年代という二つの要素を含めるが、その両者からも朝日遺跡の事例が現状では最もものと思われる。その後の二世紀末葉から三世紀段階の鏡となると、一気に

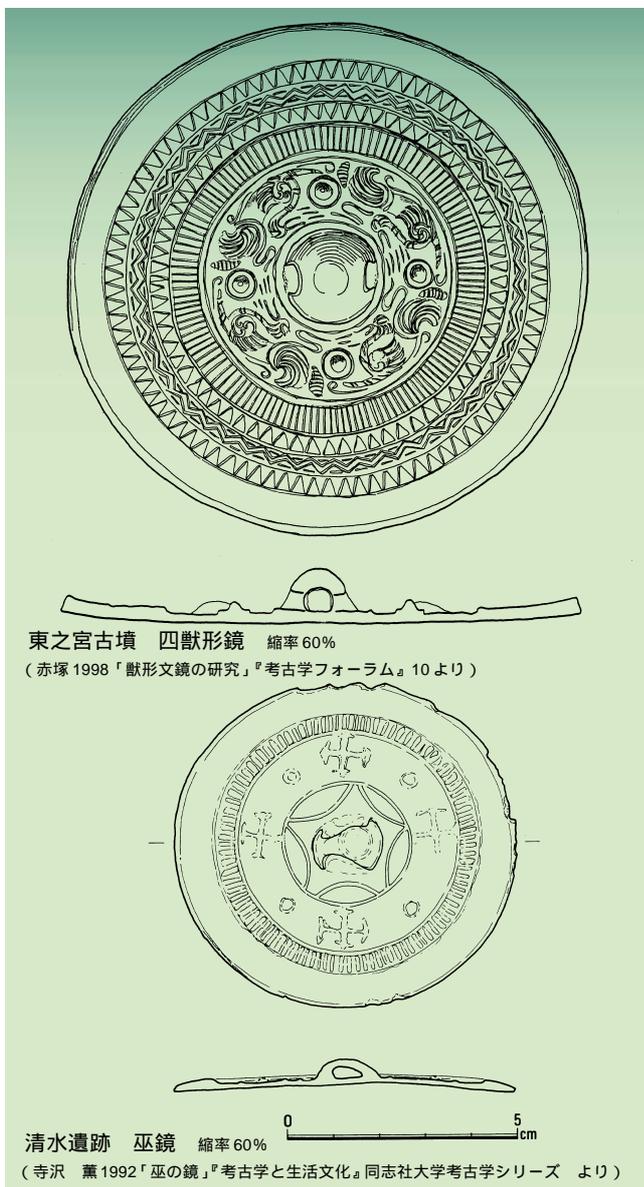
増加し多様な鏡群が存在する。中国鏡と倭鏡と区別すると、中国鏡では笹ヶ根1号墳や三ツ山1号墳出土の^{うきぼりしきじゅうたい}浮彫式獣帯鏡、東之宮古墳の斜縁二神二獣鏡。その他、

愛知県古鏡一覧表 (no. は同範鏡番号を示す)

鏡式	所在地	遺跡・遺構名	面径	備考
四獣形鏡	名古屋市瑞穂区	おつくり山古墳	15.4	
方格規矩倭鏡	名古屋市瑞穂区	おつくり山古墳	10.9	
画文帯仏獣鏡	名古屋市中区	大須二子山古墳	21.5	
画文帯同向式神獣鏡	名古屋市中区	大須二子山古墳	19.5	
六鈴乳文鏡	名古屋市熱田区	白鳥古墳		
三角縁波文帯三神三獣鏡	名古屋市北区	白山古墳	21.8	
六弧内行花文倭鏡	名古屋市北区	白山古墳	12.4	
四獣形鏡	名古屋市北区	白山古墳	10.3	絵画文鏡系
四獣形鏡	不明	不明	11.4	味鏡神社
珠文鏡	不明	不明	5.1	味鏡神社
掬文鏡	不明	不明	6.8	味鏡神社
四獣形鏡	名古屋市北区	岩窟堂	16.4	
上方作系浮彫式獣帯鏡	名古屋市守山区	笹ヶ根1号墳	12.6	
渦文鏡	名古屋市守山区	松ヶ洞8号墳	6.7	2号主体
六鈴渦文鏡	名古屋市守山区	松ヶ洞8号墳	9.7	1号主体
八弧内行花文倭鏡	名古屋市守山区	富士ヶ嶺古墳	14.1	
五鈴渦文鏡	名古屋市守山区	志段味大塚古墳	11.2	
七鈴神獣鏡	名古屋市守山区	羽根古墳	14.6	
重圍文鏡	名古屋市守山区	寺林第1号墳	5.3	
方格規矩鏡	一宮市	車塚古墳		現物なし
四獣形鏡	一宮市	車塚古墳	13.4	
掬文鏡	一宮市	車塚古墳	10.2	
不明	一宮市	岩戸古墳		現物なし
三角縁波文帯三神三獣鏡	春日井市	出川古墳	22.1	no.111
三角縁波文帯三神三獣鏡	春日井市	出川古墳	22.1	no.111
甕龍鏡	春日井市	出川古墳	18.4	
掬文鏡	春日井市	出川古墳	12.1	
五獣形鏡	春日井市	山神古墳	15.5	
八弧内行花文倭鏡	春日井市	篠木古墳群	11	
乳文鏡?	春日井市	上奈遺跡	2寸	現物なし
浮彫式獣帯鏡	春日井市	笹原古墳	17.6	
不明	春日井市	勝川遺跡		小破片
方格規矩四神倭鏡	大山市	東之宮古墳	21.9	
三角縁唐草文帯二神二獣鏡	大山市	東之宮古墳	21.5	no.52
三角縁唐草文帯三神三獣鏡	大山市	東之宮古墳	21.3	no.48
三角縁波文帯三神三獣鏡	大山市	東之宮古墳	21.3	no.69
三角縁波文帯三神三獣鏡	大山市	東之宮古墳	21.4	no.70
斜縁同向式二神二獣鏡	大山市	東之宮古墳	21.1	
四獣形鏡	大山市	東之宮古墳	11.2	
人物禽獣文鏡	大山市	東之宮古墳	12.8	破砕鏡?
人物禽獣文鏡	大山市	東之宮古墳	14.1	破砕鏡?
人物禽獣文鏡	大山市	東之宮古墳	16.2	
人物禽獣文鏡	大山市	東之宮古墳	16.3	
画文帯神獣形鏡	江南市	南大塚古墳	14.4	
三角縁獣文帯三神三獣鏡	小牧市	宇都宮古墳	21.8	no.118
三角縁獣文帯三神三獣鏡	小牧市	小本天土山古墳	21	no.117
六神鏡	小牧市	小本天土山古墳	11	
三角縁波文帯三神三獣鏡	小牧市	甲屋敷古墳	21.1	no.71
六弧内行花文倭鏡	小牧市	甲屋敷古墳	8.1	
三角縁波文帯三神三獣鏡	小牧市	甲屋敷第2号墳	22.2	
浮彫式獣帯鏡	小牧市	三ツ山1号墳	12.2	
六神鏡	小牧市	三ツ山2号墳	14.5	
掬文鏡	小牧市	三ツ山2号墳	8.9	第2主体
三角縁獣文帯三神三獣鏡	西春日井郡師勝町	仙人塚古墳	23.5	no.115
S字文鏡	西春日井郡清洲町	朝日遺跡	7	
虺龍文鏡	西春日井郡清洲町	朝日遺跡	7.4	破鏡
乳文鏡	丹羽郡大口町	白亀塚古墳	6.5	
四神二獣形鏡	丹羽郡大口町	石亀塚古墳	13.2	
巫鏡	丹羽郡大口町	清水遺跡	7.4	余野遺跡群
三角縁獣文帯四神四獣鏡	海部郡佐織町	奥津社古墳	21.9	no.34
三角縁波文帯甕龍鏡	海部郡佐織町	奥津社古墳	24.4	no.4
三角縁四神四獣鏡	海部郡佐織町	奥津社古墳	23.8	no.18
甕龍鏡	不明	不明	21.7	淨賢寺蔵
三角縁獣文帯三神三獣鏡	東海市	兜山古墳	22.3	
六神鏡	東海市	兜山古墳	16.2	
掬文鏡	東海市	兜山古墳	9.4	
内行花文鏡	東海市	兜山古墳	11	
虺龍文鏡	東海市	兜山古墳?	9.2	
画文帯同向式神獣鏡	岡崎市	亀山2号墳	20.9	
珠文鏡	岡崎市	亀山2号墳	7.7	
乳文鏡	岡崎市	宇頭主塚古墳	8.6	
飛禽文鏡	岡崎市	岩津1号墳	8.3	
掬文鏡	岡崎市	栗林古墳	11.8	
珠文鏡	不明	不明	9.3	伝愛知(東博蔵)
六弧内行花文倭鏡	安城市	八ッ塚古墳	10.5	
六弧内行花文倭鏡	安城市	北郷古墳	9	
珠文鏡?	幡豆郡吉良町	岩谷1号墳		現物なし
四獣形鏡	幡豆郡吉良町	若宮1号墳	11.6	
不明	幡豆郡幡豆町	中ノ郷古墳	9	伝
不明	幡豆郡幡豆町	中之浜古墳		伝
三角縁吾作三神五獣鏡	豊田市	百々古墳	21.4	伝
乳文鏡	豊田市	豊田大塚古墳	10.6	
六弧内行花文倭鏡	豊田市	ふっそ坂		現物なし
八弧内行花文鏡	豊田市	宇津木古墳	15.9	
乳文鏡	豊橋市	寺西1号墳	9.3	
珠文鏡	豊橋市	弁天塚古墳	8	
甕龍文鏡	豊橋市	東田古墳	10.5	
不明	宝飯郡一宮町	金沢大塚古墳		現物なし
甕龍鏡	豊橋市?	吉田		現物なし



県内古鏡の分布 ()内は出土地伝承



鏡としては岩津1号墳の飛禽文鏡、さらに魏晋代の倣古鏡とされる東田古墳の双鳳文鏡などがある。倣古鏡としては、まず清水遺跡出土の巫鏡、東之宮古墳の人物禽獸文鏡、朝日遺跡のS字文鏡などが個性的で最古の倣古鏡の範疇で考えることができる資料と思われる。そしてこれらとは区別して、東之宮古墳や奥津社古墳出土の三角縁神獸鏡が存在する。その他、古墳時代前期でも比較的早く遡る可能性が高い資料としては、東之宮古墳の方格規矩倣古鏡や四獸形鏡、白山藪古墳の四獸形鏡、三ツ山2号墳の六神鏡・捺文鏡、寺林第1号墳の重圈文鏡、上条遺跡出土の鏡などを加えることができる。これらの鏡は遅くとも三世紀後葉から四世紀前葉を中心にして製作された鏡であると考えておきたい。

東海地域特有の倣古鏡

三角縁神獸鏡群のなかでも新しい資料とされる三角縁獸文帯三神三獸鏡は、小牧市小木古墳群に集中して分布するが、この種の鏡式は、また伊勢湾沿岸部に偏在する傾向がある。ところで、東海地域には特有の倣古鏡が分布することが知られている。その代表的なものが、東之宮古墳の人物禽獸文鏡であり、三ツ山2号墳の神像鏡である。まず人物禽獸文鏡であるが、東之宮古墳で四面、その他には岐阜県宝珠古墳と行基寺古墳から一面づつ出土している。この系列の鏡は、現状では濃尾平野以外には知られていない。類似する鏡として狩獵文鏡が含まれる。こうした絵画文鏡は、大きく東之宮古墳の人物禽獸文鏡系と大和天神山古墳出土の人物鳥獸文鏡系の二者に別れると考えている。因に人物禽獸文鏡で最も古い鏡は、東之宮古墳の棺内から唯一出土している鏡である。次に神像鏡であるが、鏡が東海地域に多く分布する点はずでに荻野繁春が指摘している。さらに神像鏡と龍鏡との関係も指摘されているが、むしろ神像鏡は、大垣市矢道高塚古墳出土の四獸形鏡およびその系列鏡との関係を考えるべきである。濃尾平野そして伊勢湾沿岸部を広く概観すると、そこにはデザインを通じて一貫した系列の鏡が分布することがわかってくる。

古墳への副葬

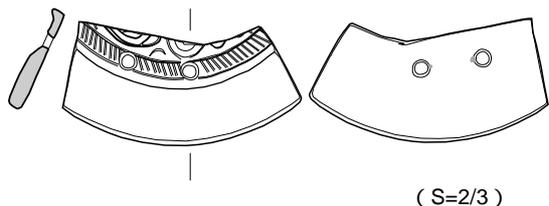
濃尾平野に鏡が西方より流入したのは、西暦1世紀はじめの王莽代を中心とする鏡群であった。具体的には岐阜市瑞龍寺山山頂墳出土の内行花文鏡(破砕鏡?)や美濃市観音寺山古墳の方格規矩鏡(破砕鏡)、関市砂行遺跡出土の方格規矩鏡(破鏡)朝日遺跡の龍文鏡(破鏡)などである。山中式初頭段階から使用され、2世紀後半期の山中式後期から廻間式期にかけて副葬されはじめたようである。こうした時期になると、浮彫式獸帯鏡や神獸鏡・變鳳鏡といった漢鏡7期を中心とした鏡が急速に流入し、あわせて独自の倣古鏡製作も開始されていったものと思われる。その初源的な例が、美濃観音寺山古墳の重圈文鏡や清水遺跡の巫鏡である。朝日遺跡や砂行遺跡の懸垂用破鏡の埋納は、こうした鏡製作・流入の画期を教えてくれる貴重な資料である。

参考文献

- 岩野見司 1976『愛知の古鏡』毎日新聞
 荻野繁春 1982「倣古神像鏡について」『福井工業高等専門学校研究紀要』人文・社会科学第16号
 岡村秀典 1999『三角縁神獸鏡の時代』歴史文化ライブラリー66 吉川弘文館
 赤塚次郎 2000「絵画文鏡の研究」『考古学フォーラム』12
 *砂行遺跡については(財)岐阜県文化財保護センター成瀬正勝氏にご教示

朝日遺跡出土の虺龍文鏡

え! かしな遺物 No.5



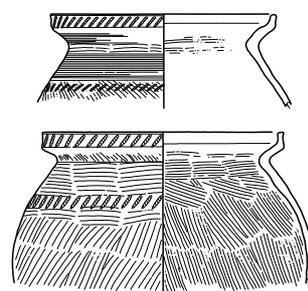
(S=2/3)

愛知県西春日井郡清洲町の朝日遺跡で、平成11年度の調査(99Ab区)において、弥生時代後期の土壌(SK01)から虺龍文鏡が出土しました。鏡は、長軸235cm 短軸120cmの楕円形状の土壌の中央部に、鏡面を上にして発見されました。またガラス小玉1点も見つかっていますので、土壌墓に伴う副葬品である可能性が高いと思います。なお共伴した土器は、西暦二世紀後半の山中式4段階に所属する甕・壺です。

出土した虺龍文鏡はこの種の鏡ではやや新しいもので、1世紀前半に製作された中国鏡であり、S字状の文様(虺龍文)が四つの突起(乳)の間に配置され、おそらくS字状の文様の両側には鳥が描かれているものと思われます。鏡は意図的に破碎され、ペンダント用に2つの孔が穿たれています。各破面はよく研磨され、孔には懸垂けんすいの痕跡も見られます。

復原面径約7.4cm。

(赤塚次郎)



(S=1/6)

平成12年度 埋蔵文化財展

・埋蔵文化財講演会・講座の報告



講師 小和田哲男氏

8月12日(土)～8月27日(日)の期間で、岩倉市図書館において開催しました。岩倉市内の遺跡出土資料をはじめ、今回の展示の中心となる「岩倉・清須・那古野 ～天下布武へのプロローグ～」のコーナーでは、岩倉城や清洲城、名古屋城の戦国時代の生活品や呪いの道具まじななど多数を展示しました。8月19日(土)には、岩倉市公民館において静岡大学教授小和田哲男氏を講師に迎え、「織田信長の尾張統一と岩倉城」と題した講演会

を開催。約300人の聴衆が会場を埋め、盛況のうちに終了しました。また、講座1(8/12)では今回のテーマに関連する戦国期の4遺跡について、講座2(8/26)では昨年調査を行った主な遺跡について担当者がスライドを用いて、わかり易く解説を行いました。展示開催期間中の展示室入場者は1,380名でした。ご協力・ご来場、ありがとうございました。



ホームページの体験コーナー

オトナだって興味はあるのです。



まいぶん愛知 No.62

発行 平成12年9月20日

編集 (財)愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017

愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24

TEL 0567-67-4163 FAX 0567-67-3054

http://www.maibun.com E-mail:doki@maibun.com

印刷 クイックス